

自由の声

No. 4 発行 アジア・アフリカと共に歩む会
Published by
Together with Africa and Asia Association

1994年初頭にあたって

会の活動に直接携わっているメンバーの感想、抱負などを御紹介します。(順次)

★希望が見えてきた 松本 富美江(会員)

選挙を目前にしてか、近頃南アフリカの動きが活発になってきた。多少は南アフリカに関わる者として希望が見えてきたような気がする。

私にとって南アはまだまだ遠い国だ。日本に住んでいて私は人権が踏み躪られるような経験などさしてしたこともない。それでも日常の生活では小さなことでも不平不満を言う私でもある。

地球上には、まだ人間が人間としての尊厳を保つことが難しい国、人と平等に扱われることを要求しても通らない国がある。関わらなければ、その人達の心の痛みを知らないですむのかもしれないし、当事者でなければ関係ないかもしれない。でも、いつ自分が当事者とならないと言えるだろうか。人が生き生きと生活できる世の中をつくりたい。そのために、いったい自分になにができるだろうか。その一つの方法としての本を送るということを通して、少しでも役立てることに感謝しています。

これからもっと他に何かできるのかを模索していきたいと思います。

★国籍のなかったことに衝撃 巖 あゆみ(会員)

昨日のテレビのニュースで黒人(南ア)に国籍が与えられたというような報道がされていましたが、アフリカは黒人の国と思っていましたが、今まで国籍もなかったということに

ショックでした。

これからも、南アには大変な事がたくさんあると思いますが、少しでもお役に立ちたいと思っております。

★教育はすべての基本 長田 暁子(会員)

昨年は一度しかお手伝い出来なくてすみませんでした。今年はずっとちゃんと作業に参加できるようにしますので、よろしく願います。

先進国政府は現在のアフリカには山積する問題について解決能力が無いと判断してるようですが、そう思うならば、彼らが能力を身に付けられるように手助けをする事こそ本当の援助だと思えます。そういう意味も含めて教育は全ての基本です。教材が無ければ余っている私たちの日本から送るのが「持てる者」としての義務ではないでしょうか。特別の事をするのではなく、出来る事をすれば良いのだと思えます。

★アフリカにのめりこんでみたい 矢野 明海(姓)

昨年9月からこの会に参加しました。運良くアフリカ・シンポジウムに参加出来て本当に為になりました。活動ではいつも楽しく作業しました。でも翌日はやっぱり腰が痛いです。今年は活動だけでなく、アフリカについて、いろいろ勉強といたら堅苦しいけれど少しのめり込んで見ようかなと思っています。

★収穫 尾澤 僚子(姓)

浪人であった昨年は思うように活動に参加出来なかったのが、大学生になるであろう今年は活躍したいですね。この会に入りこれまでになかった年代層の人と知りあえた事が一番の収穫だったと思います。

★教育こそ民主社会の源 須藤 智子(姓)

この会に入った当初は、南アのことなどちっともわからなかったけれども、新聞やTVのニュースを気をつけて見ているうちにやっと少しわかってきました。これからは黒人が政治に正式に参加できるようになり、教育が今まで以上に重視されるようになると思います。そのような中、この会の活動が南アの黒人達の教育の役に立っているのはとてもうれしいことだと思います。これからはがんばってこの会の活動に参加していきたいです。

★本は知識の泉 清水 悦子(姓)

この活動のことは、朝日新聞の記事で知りました。いつもいつも「人の役に立つことをなにかしたい」と思いつつ、なにかしら理由をつけてはしりごみしていたので、同じ埼玉県での活動、それも本に関するものというのは、見逃せないチャンスのように思えました。

人が一生のうちに得られる体験は限られたものですが、本を通してなら自分の世界は何千倍にも広がります。私達日本人は、たいてい(そうでない人のことも忘れてはなりません)識字能力を持ち、幼い頃から本によって様々な感動をまた知識を得ることができます。あたりまえのようですがこれほど幸運なことです。この幸運を日本人だけのものにしておいてはいけない、全世界に広げたいと私は思っています。

私は図書館員ですので、南アフリカに図書館を作る時、何かお役に立てればと思います。

★今度は日本人の番だ! 浅見 克則(姓)

戦勝国の米国を凌駕しかねない勢いで成長を続けた日本経済。しかしそれを支えた一般庶民の暮らしは当初、米国からの様々な援助によって助けられた事を忘れてはならない。給食に出てきた脱脂粉乳(マズカッタ)で育ち、ララ物資で送られて来た衣類をまとった。時は流れ、奇蹟の成長を見せた日本経済も成熟し、日本人の誰もが生活にゆとりを感じ、労働に対する価値観も大きく変化し始めた今日、我々日本人に困っている人を助ける番が廻ってきた。

★南アの人々の希望に沿った活動を 吉田 妍子(姓)

1993年の前半は協力費より、全国から送られてきた英語の本が上回り、本の山ができてしまいましたが、後半になってさらに支援者の方に送料のカンパをお願いしたり、マスコミに会の活動を取り上げてもらってから、多くの人たちのご協力を得られ、ほとんどの本を南アへ送ることができました。南アからも喜びの手紙が届き、ほっとしました。

1994年も、昨年同様、支援者の方のご協力を頂き、また、会の代表の人に現地視察に行ってもらってより南アの人々の希望に沿った活動ができたと思います。

★アフリカが身近に 島田 勝(姓)

まだお手伝いをはじめて間もないので何もわかりませんが、出来る限り会のお手伝いに参加したいと思います。アフリカという名前だけで遠い国という印象でしたが、お手伝いに参加して身近な国に感じるようになりました。

1993年の活動報告と1994年の見通し

アジア・アフリカと共に歩む会代表 野田 千香子

◆1993年度の活動

南アフリカから来日した女性活動家ユニス・コマネさんに英語の本を送ることを約束してから1年半が経ちました。1昨年の秋に小さな小包みから始まった本送付の活動が全国の皆さんの応援とご協力によって、日が経つにつれて、本や寄付金を送って下さる方の人数も、作業をして下さる方の数も、南アで本を受け取る団体や学校や個人の数もどんどんふえてきました。

私たちはふつうの生活をする日本人として次のようなことを念頭におきながら活動をすすめてまいりました。

- ◇無理のない、長続きするやりかたをとること。
- ◇全国の皆さんからお預かりした本やお金は無駄のないよう、大切にすること。
- ◇日本にいても、来日した南アの人々との交流に努める。
- ◇南アを支援する他のNGOと連絡を取り合う。
- ◇南アの支援先と連絡を密にし、報告を受ける。
- ◇南アの情勢を知るだけでなく、送付先の状況などを積極的に日本国内に知らせていく。
- ◇活動上の困難な状況などに直面した時は、みんなの知恵を結集し、乗り切る努力を行う。

こうした姿勢で1年半、活動してきた現在、南アフリカに送り出した本の数は3万5千冊になりました。全部をトラックに積んでみるとしますと、2トントラックに4台半となります。

1993年の夏、全国の個人や学校や出版社からたくさんの本をいただき、特別郵袋で送っていましたが、本の量に対して送料が不足し、資金が底をついてしまいました。しかし、会の窮状をそれまで支援して下さった方々に訴えたのと、朝日新聞の全国的な報道のおかげで、多くの方々から寄金をいただき、窮地を脱することができました。また、身近で会の活動を一緒にし下さるメンバーの人数も秋には20人を越えて、作業が手早くスムーズに運ぶようになりました。

そしてさらに、前から申請していた庭野平和財団と主婦の友社の助成金をいただけることになりました。それだけではありません。良いことは重なるもので大阪商船三井船が横浜港から南アのダーバン港までの輸送を無料で引き受けて下さることになったのです。

三井を通じて送付する荷については、梱包料、横浜港までの送料、手数料、港湾保管料南ア国内の送料などはかかりますが、郵送と比較すると3分の1位の費用ですむことになります。ダーバンとジョハネスブルグ以外の地域には従来どおり、郵便局から送りますので、平均すると1冊にかかる送料はこれまでの半分に近い60円位になりました。

南アフリカの送り先からの声は、項を改めてご紹介いたします。

◆1994年の見通し

1994年はこうした良い条件をフルに生かし、南アとの連絡を密接にして、次のような活動を行なっていくつもりです。

- (1) 南アの人々の要望に沿った内容の本を多く集めて送るようにする。
- (2) 本がより有効に活用できるよう、南アの学校や地域の図書活動についても具体的に現地と相談し、援助していく。

(3) 上記の援助について具体的には、実情を把握するため、3月に南アを訪問し、現地で話し合いをもち、プロジェクトを取り決める。

(4) 本の送付だけにとどまらず、黒人の教育向上についての南アからの要望に対しても、私たちの会にとって無理のない範囲で積極的に応えていくようにする。

(5) 国内で支持をして下さる方々や団体、学校に対しては、昨年同様、年数回の活動報告をこの紙面を通じて行なっていく。また、活動報告会や講演会を行なう。

南アフリカは4月27日の初の黒人参加の総選挙を控えて、幾多の困難を抱えながらも、緊張と大きな喜びに満ちています。総選挙が無事に実施され、新政府が発足しても長いアパルトヘイトによって痛め付けられた黒人の生活がすぐに向上し、問題が解決していくことは難しいことと考えられます。教育一つとっても平等化には20年、30年かかりそうです。私たちは、彼らの直面している困難を自分のこととして共に乗り越えていきたいと思えます。私たちのやり方を押しつけるのではなく、彼らの民主化への歩みを教育の側面から応援していくようにしたいと思います。そうすることで、日本国内の問題、国と国との問題も考え直していきたいと思っています。

編集後記

◆現在、南アのベノニ、ダーバン、キンバリー、ピーターマリッツバーグ、イシナンバ、その他に本を送っています。これらの本はすべて全国の日本人と在日の外国人の皆様からの寄付によるものです。一旦私どもの会まで送って下さる手間や送料も大変なことと思います。ご協力に対し、心から感謝申し上げます。

◆南アフリカまでの送料や連絡費や梱包費などは、全国の皆様からのご寄付によるところが大きいのですが、庭野平和財団から送料と南ア訪問の費用の一部として助成金をいただきました。まもなく主婦の友社からも活動費の一部として助成金をいただきます。また大阪商船三井船舶が横浜港からダーバン港までの輸送を無料で引き受けて下さることになり、昨年の11月と12月、2度に渡って無料でコンテナを使わせていただきました。郵送しなければならぬ地域もありますので、送料がすべて無料になったわけではありませんが、平均して同じ費用で従来の2倍の本が送れるようになりました。会の活動を支えて下さっているお一人一人の皆様、会社や団体や学校すべてに感謝いたします。

◆また、疲弊した状況の下にいる黒人たちの教育の向上のために身をつくして働いている南アの黒人および白人の皆さんにも敬意を表し、感謝いたします。

◆現在、集めている本の種類は、絵本、童話、小説、雑誌、科学や地理や現代史などの本や英英辞典（幼児から中・高校生向き、教師用）。総じてフィクションよりもどちらかといえば、ノンフィクションが要望されています。正確な現代の世界情勢などがわかる雑誌などは大歓迎です。（送付先のアンケートの回答より）。

上記の本、雑誌に該当しないものは、お送り下さる前にご連絡をお願いいたします。

◆会からのこのような報告の送付を特に必要とされない方は中止いたしますので、ご面倒ですが、電話、Fax、ハガキなどでご一報下さるようお願いいたします。

南アフリカ 自由の声 第4号

1994年1月20日発行

発行所 アジア・アフリカと共に歩む会